

知って備える 防災メモ

第76回



『自助』・『共助』・『公助』は三位一体

太平洋に面し、支笏洞爺国立公園をはじめとする豊かな自然に恵まれている登別市には、地震や津波、洪水、土砂災害、火山噴火など、さまざまな災害が発生する可能性があります。災害は、『他人事』ではなく、『自分事』として、日頃からの備えに心掛け、自分自身で『そのとき』にできることを今一度考えておきましょう。

災害に強いまちづくり「公助」

市は、災害情報の伝達体制の整備や非常用食料などの備蓄、ハザードマップの作成のほか、研修会などを通じて防災意識の向上を図り、企業や団体などと災害時の支援に関する協定を結ぶなど、安全安心のまちづくりを進めています。

また、災害時には、人命救助や復旧、復興などを担います。

それぞれができることを

災害が発生したときには、市民と行政が一丸となって、困難に立ち向かわなければなりません。被害を最小限に抑えるためには『自助』・『共助』・『公助』それぞれが必要不可欠です。

頼りになる地域のきずな『共助』

災害の規模が大きくなればなるほど、救助や支援を受けるまで時間がかかる可能性が高くなります。そのときには、隣近所や町内会、自主防災組織など、近くで生活する人たちの助け合いが大

▼問い合わせ
総務グループ (☎85 1130)

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち

Group

登別手話サークルしゅわっち

登別手話サークル『しゅわっち』は、市が主催する初心者向けの手話講座に参加したメンバーが、引き続き手話に親しむ機会を持つと平成30年に発足した手話サークルです。

現在のメンバーは、30代から70代までの男女16人。毎月第2・第4火曜日の10時から12時までのほりんで、登別聴覚障がい者協会会長の山田隆(たかし)さんを講師に招き、テキストを見ながら、手話を学んでいます。

新年交流会なども開催し、メンバー同士の親睦を深めているという代表の打矢美和(みわ)さんは、「みんな自分のペースで学んでいます。手話は、組み合わせによって違った意味の言葉になる



▲一年間の活動内容を話し合うメンバー

ことがあります。実際に手話にふれることで、その楽しさがかかると思います。手話でコミュニケーションがとれると世界が広がりますよ」と手話の魅力を教えてくださいました。

「手話に興味をもったきっかけは、皆それぞれ。私は通院先で出会った聴覚に障がいのある方とコミュニケーションをとりたいと思い、手話を始めました。手話を通して交流も広まり、今ではサークル活動が生活の一部になっていきます」と発足メンバーの一人、千明静子(しずこ)さんは笑みをこぼします。

言語の一つ『手話』を学んで、より多くの人と会話しませんか

手話にふれたことがない人も大歓迎で、入会当初には、必要に応じて個別に教えているという同サークル。興味がある方は、打矢さん(☎090 1507711 399)まで。